

2024 年度 長岡大学シラバス

|                |                                                     |             |    |         |   |      |                    |     |    |
|----------------|-----------------------------------------------------|-------------|----|---------|---|------|--------------------|-----|----|
| 授業科目名<br>科目コード | グローバルスタディ 4(Global Study, America)<br>2013-0-53-050 |             |    |         |   | 担当教員 | 広田 秀樹<br>(ヒロタ ヒデキ) |     |    |
| 科目区分           | 教養                                                  | 必修・<br>選択区分 | 選択 | 単位<br>数 | 2 | 配当年次 | 1～4<br>年次          | 開講期 | 集中 |
| 科目特性           | 知識定着・確認型 AL、学生参加型 AL                                |             |    |         |   |      |                    |     |    |

① 授業のねらい・概要

本授業では、アメリカ合衆国を多様な視点から包括的に学習する過程を通じての世界的視野の涵養を目指す。授業の概要は、第1に、事前学習、第2に、現地研修、第3に、事後学習、第4に、レポート作成から構成される。事前学習でアカデミック・バックボーンをつくってから、アメリカ現地研修で学習し、事後学習で考察を深め、レポートにまとめる。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

コミュニケーション能力/情報収集・分析力を育成する授業である。

③ 授業の進め方・指示事項

アメリカに関する広範な知識を学習しながら、独自で深く考える思考力を育成するため、頻繁に考察課題を提示し、自由な視点からの活発な意見を求め、討論を促す授業を行う。活発な発言をすること。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

ゼミナールⅠ前・ゼミナールⅠ後・マクロ経済学・ミクロ経済学

⑤ テキスト（教科書）

学習資料を配布する。

⑥ 参考図書・指定図書

明石和康（2012）『大統領でたどるアメリカの歴史』岩波書店

⑦ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安

- （i）アメリカに関して十分な知識を獲得し多様な視点から理解できる。
- （ii）アメリカの現地を分析・考察できる。
- （iii）アメリカに関して、独自の思考から多様な提言ができる。

| ⑧ ルーブリック                           |                                                                 |                                            |                                               |                                                         |                                                     |
|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------|---------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 評価項目                               | 評価基準                                                            |                                            |                                               |                                                         |                                                     |
|                                    | S                                                               | A                                          | B                                             | C                                                       | D                                                   |
|                                    | 到達目標を越えたレベルを達成している                                              | 到達目標を達成している                                | 到達目標達成にはやや努力を要する                              | 到達目標達成には努力を要する                                          | 到達目標達成には相当の努力を要する                                   |
| (i) アメリカに関して十分な知識を獲得し多様な視点から理解できる。 | アメリカに関して十分な知識を獲得し多様な視点から理解でき、資料等に頼らず説明でき、しかも授業内容を超える学修成果を示している。 | アメリカに関して十分な知識を獲得し多様な視点から理解でき、資料等に頼らず説明できる。 | アメリカに関して十分な知識を獲得し多様な視点から理解し、資料等を参照して説明できる。    | アメリカに関して十分な知識を獲得し多様な視点から理解し、資料等を参照し、さらに教員等の支援を受けて説明できる。 | アメリカに関して十分な知識を獲得しておらず、資料等を参照しても、教員等の支援を受けても、説明できない。 |
| (ii) アメリカの現地を分析・考察できる。             | アメリカの現地に関して、客観的データや現実を分析した上で、卓越かつ独自性に富んだ考察できる。                  | アメリカの現地に関して、客観的データや現実を分析した上で、十分に考察できる。     | アメリカの現地に関して、客観的データや現実把握の点で不十分ながら分析した上で、考察できる。 | アメリカの現地に関して、客観的データや現実把握の点で不十分ながら分析し、教員等の支援を受けて、考察できる。   | アメリカの現地に関して、客観的データや現実把握の点で分析できず、教員等の支援を受けても、考察できない。 |
| (iii) アメリカに関して、独自の思考から多様な提言ができる。   | アメリカに関して、独自の思考から、説得力もある卓越した多様な提言ができる。                           | アメリカに関して、独自の思考から、十分な多様な提言ができる。             | アメリカに関して、独自の思考から、不十分ながら提言ができる。                | アメリカに関して、教員等の支援を受けて提言ができる。                              | アメリカに関して、教員等の支援を受けても提言ができない。                        |

| ⑨ 学習到達目標（評価項目）                    | 定期試験（レポート含む）                | 小テスト | 課題  | 発表・実技 | 授業への参加・意欲 | その他 | 合計   |
|-----------------------------------|-----------------------------|------|-----|-------|-----------|-----|------|
| 総合評価割合                            | 45%                         |      | 30% |       | 25%       |     | 100% |
| (i) アメリカに関しての十分な知識の獲得と多様な視点からの理解力 | 20%                         |      | 10% |       | 10%       |     | 40%  |
| (ii) アメリカの現地を分析・考察する能力            | 20%                         |      | 10% |       | 10%       |     | 40%  |
| (iii) アメリカに関しての独自の思考からの提言力        | 5%                          |      | 10% |       | 5%        |     | 20%  |
| フィードバックの方法                        | 課題についてコメントを行い討論のベースとして紹介する。 |      |     |       |           |     |      |

|                                      |
|--------------------------------------|
| ⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等） |
|--------------------------------------|

アメリカの多様な現実・史実を把握しつつも、その背後にある本質を見抜き、独自の考えや解釈ができる高度の思考力を、身につけてもらうような授業を志向する。

| ⑪ 授業計画と学習課題 |                               |                             |       |
|-------------|-------------------------------|-----------------------------|-------|
| 回数          | 授業の内容                         | 授業外の学習課題と時間（分）<br>（※特別な持参物） |       |
| 1           | イントロダクション・事前学習の方法について         | 学習内容の総復習と考察課題               | 240 分 |
| 2           | エリア分析の手法（Past・Present・Future） | 学習内容の総復習と考察課題               | 240 分 |
| 3           | アメリカの Past I（植民地時代・1700 年代）   | 学習内容の総復習と考察課題               | 240 分 |
| 4           | アメリカの Past II（1800 年代）        | 学習内容の総復習と考察課題               | 240 分 |
| 5           | アメリカの Past III（1900 年代）       | 学習内容の総復習と考察課題               | 240 分 |
| 6           | アメリカの Past IV（2000 年以降）       | 学習内容の総復習と考察課題               | 240 分 |
| 7           | アメリカの Present I（地理的特性）        | 学習内容の総復習と考察課題               | 240 分 |
| 8           | アメリカの Present II（政治的特性）       | 学習内容の総復習と考察課題               | 240 分 |
| 9           | アメリカの Present III（経済経営的特性）    | 学習内容の総復習と考察課題               | 240 分 |
| 10          | アメリカの Present IV（文化的特性）       | 学習内容の総復習と考察課題               | 240 分 |
| 11          | アメリカの Future I（国際経済的予測と未来）    | 学習内容の総復習と考察課題               | 240 分 |
| 12          | アメリカの Future II（国際政治的予測と未来）   | 学習内容の総復習と考察課題               | 240 分 |
| 13          | アメリカ現地研修                      | 現地研修の総合的レビュー                | 240 分 |
| 14          | 事後学習                          | 学習内容の総復習と考察課題               | 240 分 |
| 15          | レポート作成について                    | 学習内容の総復習と考察課題               | 240 分 |

|                  |
|------------------|
| ⑫ アクティブラーニングについて |
|------------------|

知識定着・確認型 AL 及び学生参加型 AL を採用する。授業内容をベースにして、独自に情報収集、考察する過程で本質を見抜き、独創的な提言ができる高度な思考力が身につくようにする。

※以下は該当者のみ記載する。

|                    |
|--------------------|
| ⑬ 実務経験のある教員による授業科目 |
| 実務経験の概要            |
|                    |
| 実務経験と授業科目との関連性     |
|                    |